

### 山行計画

宝剣岳・木曾駒ヶ岳 10月4日(水)～5日(木) (前田)

車で戸塚6時出発

千畳敷ー木曾駒頂上山荘(泊)ー宝剣岳ー千畳敷

参加者: 前田、井舛他

\*参加者募集

劔岳北方稜線 10月9日(月) 夜行 (前田)

参加者: 前田、星野他1名

玄倉から塔ノ岳 10月29日(日) (吉田)

集合: 新松田駅 7:15 発西丹沢行乗車 玄倉 7:59 着  
玄倉ー雨山橋ー熊木沢出合ー塔ノ岳ー大倉尾根ー大倉バス停

参加者: 吉田、前田、鈴木、武石、野間、瀧

### 山行報告

谷川岳主稜縦走 8月4日～5日(前田) 単独

19.3km、登り2744m、下り2503m、負荷12.5kg

8月4日

2週間後の北海道行きを前に足慣らしのつもりで谷川岳に行くことにした。行き帰りとも新幹線にしたのは、つい最近「大人の休日倶楽部ジパング」の会員となったので、30%割引を利用してみたかったことにある。

わざわざ先の駅まで切符を買い、上毛高原で途中下車。それから谷川岳ロープウェイまでのバスを利用ということにした。初日は肩の小屋泊まりなので家を出るのはゆっくりでよかった。

10時過ぎロープウェイ駅を出て登山指導センターに向かう。天気はまずまず。センターで登山届をポストに入れ、暑くなりそうなので水を2L詰めてから、西黒尾根に向かった。

日本有数の急登と書いてある。マイペースのせいかなという感じを受けない。日差しの傾かぬうち、他の登山者とも行き交うことなく小屋に着いた。

小屋は寝具なしの素泊まり。主稜線はキャンプ禁止なので小屋利用はやむを得ないがテントを張れないのがちょっと残念。

外のテーブルで夕景色を眺めながらご飯を炊き夕食を

すませた。

日没。小屋に入りシュラフにもぐる。明日は少し早く出よう。

8月5日

寝静まった小屋をそっと抜けだし、昨日のテーブル炊事を始める。そのうち一人二人、便所に行く人があつる。星を眺めながら朝食を終えた。少し雲があるが今日も天気は良い。風もない。

空が白むころ、ライトを点けて笹原の稜線へ向かった。今日の行程は少し長い。



大障子避難小屋と万太郎山 6:23



良い天気です 8:22

万太郎山から先、毛渡乗越までは笹が登山道を覆い隠していた。見当をつけて適当に足を出すのが滑る滑る。腿からは露でびしょりとなる。気持ちが良いのでそのまま歩いていたら靴の中が、「ぐじゅぐじゅ」してきた。靴下の足首部分から露がしみ込んだのだろう。

今度は気持ちが悪い。藪漕ぎが始まったときスパッツを付ければ良かった。

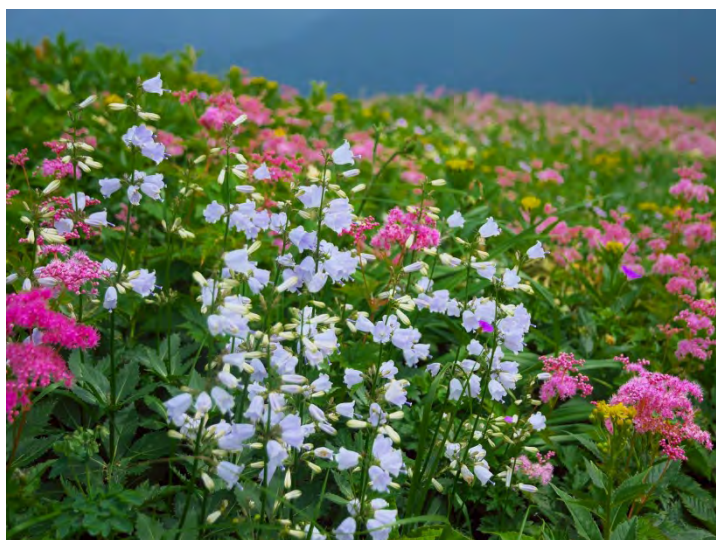
毛渡乗越の先は笹が切り払われていて藪漕ぎは終わり。ありがたいが、登山道の整備は大変なことだろう。だが、歩きやすくなったからといって、そう早く歩けるものではない。

エビス大黒の頭、仙の倉山とアップダウンが繰り返される。頂上に着いて先を見下ろすたび、ずっと下に登り返す道が見える。「そんなに下らせることないじゃないか」最後、平標山を越えればそれも終わり。

平標山の下り、木の階段みちを降りきる辺り、暑くちょっとしんどい縦走に素晴らしい贈り物が待っていた。(花の名は三種類ぐらいしか知らないが) うわーっと一面のお花畑。「そうか、こっちから平標や仙の倉へ来る人たちは、これが目当てなんだ」と得心したものである。登山道まで咲きこぼれている。「なんていう花か知らないが、やっぱりいいもんだな」(あとで写真を見、七種類ぐ



アカバナシモツケソウ 14:38



あたり一面これでした 14:54

らいは当たりが付けられた。どれも知らなかった) 下りきりアスファルトの一般道に出てへたりこむ。地図を確認する。

左、国道。そこを左で「平標山登山口」。のろのろ歩く。左むこうにバス停が見えた。

8月4日

谷川岳登山指導センター 10:40→巖剛新道分岐  
13:20→  
肩の小屋 15:30

8月5日

肩の小屋 4:40→オジカ沢ノ頭 5:30→大障子ノ頭 6:50→万太郎山  
8:10→毛渡乗越 9:30→エビス大黒ノ頭 11:20→仙の倉山 13:00  
→平標山 14:00→平標山登山口バス停 16:40 (17:15越後湯沢行き)

## 大雪山・トムラウシ山 8月18日(金)～22日(火)

参加者：前田、武石、大沢、一之瀬、角田（5名）

コースタイム

18日 羽田 11：30 発－旭川空港－旭岳温泉 14：30

19日 5：30 ロープウェイ駅集合－7：00 姿見駅－

9：30 旭岳山頂－11：45 間宮岳分岐－14：30 白雲岳分岐  
－16：00 白雲岳避難小屋

20日 5：00 白雲岳避難小屋－6：20 高根が原－

8：45 忠別沼－10：20 忠別岳－12：15 忠別岳避難小屋分岐  
－13：00 五色岳－14：30 ヒサゴ沼分岐－16：15 日鷲沼  
避難小屋

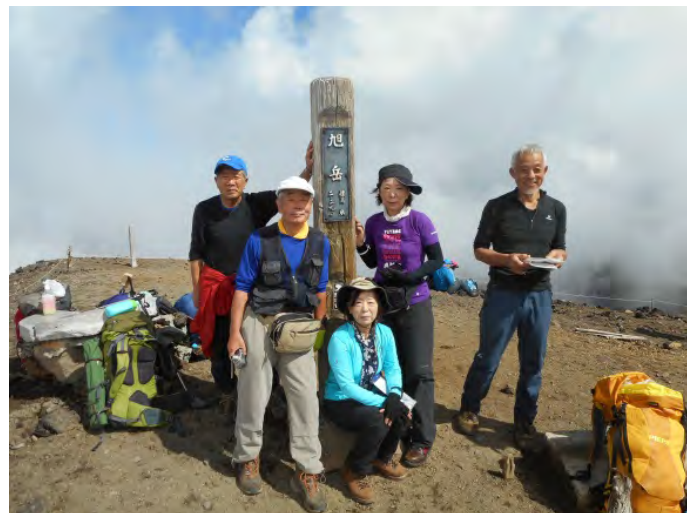
21日 4：00 ヒサゴ沼避難小屋－6：30 ヒサゴ沼コル附近－

7：30 日本庭園－10：35 トムラウシ山頂－12：40 トムラ  
ウシ公園－13：30 前トム平－14：25 コマドリ沢出合－17：  
30 カムイ天上付近－18：30 救助－21：05 短縮登山口－23：  
00 東大雪荘

22日 10：00 東大雪荘－新得駅 11：00－南千歳－解散、飛  
行機・新幹線で横浜へ

8月18日、11時30分、ANAに乗り、旭川空港に向かう。到着が遅れたが、旭岳行きのバスが待っていてくれた。バスに飛び乗り、14時30分頃、旭岳温泉に着いた。宿舎とテントに分かれる。旭岳ビジターセンターに行き、旭岳の自然について情報収集する。ヒグマが出没しているとのことで、「ルートから外れないことや熊鈴をつける」などの注意を受ける。温泉に入り、翌日からの英気を養う。

19日、ロープウェイ駅に5：30集合。始発で姿見駅へ。原生林、幹が複雑に曲がったダケカンバ、遠くかすむ山々、眼下に広大な景色が広がる。8分で姿見駅に着く。荷物を分担し、トイレ等準備を整え、7：00出発。



大雪山山頂

整備された登山道を登る。7：35、6合目。噴気孔から噴煙が盛んに上がり、硫黄のにおいが漂ってくる。8：30、8合目。火山礫と火山岩の荒涼とした急な登山道を登る。ペースが遅く、他のパーティに次々に抜かされる。

9：30、大雪山山頂（2,291m）に着いた。手前に金庫岩と呼ばれる巨岩があった。山頂は広い。噴煙とガスで眺望はきかない。かろうじてこれから辿る東側の山々が見えたが、じきに見えなくなった。20分ほど休み、出発。砂礫と火山礫の滑る道を下り、その先の長い雪渓を下る。下りに時間がかかる。裏旭キャンプ場の横を通って稜線に上がり、なだらかな稜線を歩く。

11：45、間宮岳分岐へ。大きな火口（御鉢平）の周りを歩く。高低差はあまりなく、緩やかだ。ハイマツと草地の緑の濃淡、薄褐色の岩肌、白い雪渓、青い空に舞う鷲、広大な神々の庭だ。12：50、北海岳分岐、さらに稜



御鉢平



南側から見た 白雲岳

線を辿る。雄大な景色は見飽きることがない。

4：30、白雲岳分岐。白雲岳の北側は、ごつごつした石

広大な溶岩台地

を積み上げた、切り立った斜面だ。優美な名前とは裏腹の厳しい景観だ。斜面の下を巻く。石ころだらけの歩きにくい道を登り、雪渓を2回渡る。稜線を超えると、緩やかな下りになるが、すぐに石ころの急坂になった。

避難小屋近くになると、お花畑が広がる。エゾコザクラ、ミヤマキンポウゲ、ウサギギク、イワブクロ、イワウメ、トウヤクリンドウ、リンドウ、小ぶりだが、色の濃い花々が足元に広がる。小さいが緑の濃いバッタが飛び跳ねる。少し先のキャンプ場には、もう、様々なテントの花が咲いている。



### 白雲岳避難小屋・テント場

16:00、白雲岳キャンプ場に到着。ここは、管理人がいて、よく整備されている。ペースは遅かったが、雄大な景色と足元の美しい花々を楽しみながら、歩けた。

テント設営後、夕食。夕食は、カレーと桜エビの炊き込みご飯を外でいただいた。美味しかった。

明日に備えて、早めに就寝。

20日、3時起床、山菜おこわの朝食をいただく。テントをたたんで、5時出発。今日歩く距離は16km、一番長い。

石ころの下り坂を下りると、溶岩台地の端に出る。

広大な大地が広がり、その端を縫うように登山道が遙か先まで続いている。振り返ると、緑の木立の中に、避難小屋の赤い建物が朝日に輝いて美しく見える。

「あれ！あんなにきれいだったっけ？」。

岩礫地の中の道をしばらく歩く。

いかにも北海道らしい景色が広がる。途中、コマクサの群落がいくつも見られた。

6:20、高根ヶ原分岐。草地の中に、環状型の構造土が見られた。厳しい寒冷気候の凍結が生み出した独特の地形だ。さらに広大な台地を歩く。

左手に雪渓が現れ、緑の崖下に碧い沼が見える。



しばらく歩くと、ハイマツとクマザサの中のぬかるんだ。歩きにくい道に変わり、木道や干上がった湿原にな



### 忠別沼と忠別岳

った。忠別沼かと思ったが、違っていた。

再びなだらかな台地を歩く。ようやく台地のへりに近づいたようだ。灌木の中の急坂を下ると、眼下に碧い忠別沼と白い木道が見えた。

8:45、忠別沼に着いた。高層湿原になっている。

白いワタスゲが風にそよぐ、沼のほとりで休憩。気持ちいい。沼の中に、大きなオタマジャクシがうようよい。よく見ると、オタマジャクシではない。

サンショウウオのようだ。地図で確かめると、エゾサンショウウオの生息地だった。

大きいはずだ。

爽やかな風がそよぐこの景色の中にもうしばらくたたずんでいたかったが、名残惜しく出発した。

灌木の中のぬかるんだ道を上がり、広い平原に出た。

ハイマツと草地の中に大きな岩がモアイ像のように立っている。緩やかな平原を登る。

雪解けが遅かったのか、チングルマがきれいに咲いていた。ここもお花畑だ。

10:20、忠別岳（1,963m）の山頂に着いた。上りは緩やかだが、山頂は切り立った崖のへりになる。

張り出した山頂から下をのぞくと切り立った岩の崖が迫る。背中が寒くなる。南の方に、初めてトムラウシの鋭い山頂が見え、感激する。

前方には、これから迎える登山道が、次の山の先へと遙かに続いている。

途中に、忠別岳避難小屋の黒い三角屋根が見えた。

10:50、下山。ガレ場、石ころの道を下ると、ハイマツ帯の中に入って行く。灌木帯になると土の道になり、歩きやすくなる。急坂を下りると、平原に出る。

12:15、忠別岳避難小屋分岐。

忠別岳の山頂はガスに覆われていた。平原からダケカンバ、灌木の中を登る。途中から大きな石もある急坂になる。ナナカマドが赤い実をつけ、葉の色も変わり始めていた。北海道の山は短い夏を終え、秋に向かっていているんだなあと思っていたら、足先に赤とんぼがとまった。

13:00、五色岳山頂。初めてコースタイムをきる。

みんなびっくり！山頂から90度向きを変え、西へ向かう。15分ほどハイマツの中を歩く。視界が開けると、



五色ヶ原 神遊びの庭

雄大な景色が広がる。白い登山道がどこまでも続く（なぜ、白いのかと思ったが、近づくと木道だった）。

ダケカンバ、ハイマツと草原の緑のグラデーション、白い雪渓、広大な原野にチングルマの綿毛が果て無く広がる。木道の脇には、濃いピンクのエゾコザクラ、紫のリンドウ、クワガタソウ、白いレースフラワー、黄色いウサギギクなどの色鮮やかなお花畑が広がる。神々の遊ぶ庭、まさに、ここはカムイミンタラ…。

14:30、ヒサゴ沼分岐。トムラウシ方面と別れ、雪渓の横を下る道になる。

途中から急な下りになる。木の階段がくずれていて、歩きにくい。沼のほとりにはミツバオーレンが咲き、瑞々しくきれいだった。



ヒサゴ沼

16:15、ヒサゴ沼に着いた。すぐにテントを設営。

夕食は、マーボースープと真鯛の炊き込みご飯、美味しかった。前田さんのご飯は、本当に美味しい。

おこげも香ばしく、久しぶりに食べた。明日の水を用意して、就寝。

水作りは、結構大変だ。煮沸して冷まして時間もかかる。今日もよく歩いた…。



ヒサゴ沼と雪渓

21日、2:00起床、4:00出発。今朝は、五目炊き込みおこわだ。美味しい。テントをたたみ、ヘッドランプを点けて出発。すぐに雪渓になるが、しまっていて登れない。雪渓横の大きな石が積み重なった岩場を登り、雪渓の上部を横切る。前田さんが道を探してくれた。ついでに、ヒグマの糞も見つけて…。ここは人間の領分ではないことを実感。前田さんが熊スプレーを用意した。

10:35、ついにトムラウシの山頂（2,141m）に立った。

ハイマツの生い茂った中をかき分けて進むと、ようやく木道にぶつかった。

6:30、昨日別れたトムラウシの分岐からの道のようだ。ヒサゴ沼のコルはもう少し上のようだ。辺りは一面のチングルマの綿毛が朝露に濡れて光っている。



### 日本庭園に向かう途中

木道を進むと、干上がった沼の中に大小の石が点在する日本庭園に出た。枯山水のようだ。

7:30、少し休憩。巨岩が点在するところを抜け、巨大な石が積み重なったロックガーデンを通る。目印のペンキが少なく、見失わないように目を凝らして歩いた。緩やかなアップダウンの道を進み、8:40、開けたところで休憩した。

大小様々な石が積み重なった急坂を登り、緩やかに下ると、青く澄んだ北沼と、トムラウシ山頂が見えた。

沼まで下りる。沼に山が映り、きれいだ。

そこから岩場の登りが始まる。目印のペンキを見失わな



いように登り続ける。岩場だが、しっかりしているので登

### 北沼とガスに覆われたトムラウシ山頂

りやすい。

山頂は岩峰で、切り立った岩がそびえ立っている。

残念ながら、ガスがかかり、歩いてきた北の方は見えなかった。11:05、出発。急坂を下り、十勝岳方面との分岐、南沼に着く。前トム平方面へ進む。

草原に大小の石が点在する平原を歩く。

巨岩はオブジェのようだ。途中で出会った方から、「前トム平でヒグマが出た」と聞く。

ヒグマが登山道をふさぎ、ハイマツの実を食べていたらしい。一気に緊張する。平原の中を進み、ハイマツ帯を下る。



### トムラウシ公園の先

12:40、トムラウシ公園に着いた。沼とお花畑、ここもチングルマの綿毛が一面に広がる。トムラウシ公園は、星空がきれいなところで、観察会も行われているそう。ここから、ヒグマがいたという前トム平まで、灌木の中を登って下る。「出くわしたら…」と緊張し、熊鈴をいっそう大きく響かせながら、歩く。



### 岩場を下る

山する。

13:30、前トム平。先ほど話してくれた方が下山してきた、ヒグマの写真を見せてくれた。かなり大きい。

出会わないように祈りながら、歩く。左に前トムラウシ山を見ながら、平原を歩く。見通しが良いので、一安心だ。岩場を横切り、灌木帯に入って下る。



クマが出たという前トム平

14:25、コマドリ沢出合に着いた。さらにペースが落ちたので、皆で荷物を分担し、負担を軽くする。

沢沿いに下り、ダケカンバの樹林帯に入る。雪の重みで幹はみな谷に向かって曲り、複雑な形をしている。

さらにペースは落ち、進まない。もう一度、荷物を分担し、空身で歩けるようにする。前田さんが手を貸しながら、歩く。樹林帯の中の登りは大きな石があり、歩きにくい。前田さんが押し上げたり、手を引いたりして、なんとか登ったが、この辺りから意識の混濁が見られ始めた。

下りに入る笹藪の辺りで、歩けなくなる。笹藪の中に座り込み、意味の分からないことを口走り、眠り込み始める。

17:30 過ぎから、前田さんが救助要請をする。カムイ天上付近で電波が通じた。東大雪荘、消防、警察と連絡する。それぞれに、パーティの人員や登山計画、本人の状況を説明するので、時間がかかる。短縮登山口まで下りられれば、救助体制が取りやすいとのことだが、これ以上の下山は難しい。その間、少し広くなったところに、テントを仮設し、中で休めるようにした。

救助ヘリが飛べるギリギリの時間とのことで、不安に思いながら、救助を待っていた。

18:30、救助ヘリが近づいてきた。飛んでくれてよかった。上空から、隊員が下りてきて、救助してくれた。すごい風圧で、木にしがみついて見守った。救助ヘリが飛び去った後、テントを撤収し、19:20、真っ暗になった登山道を下

集会記録 (一之瀬) 9月4日(月) 18:00~20:00

19:30、救急車に引継ぎ、病院に搬送したとの連絡がある。

20:45、短縮登山口分岐。安全を考えて、短縮登山口へ向かう。21:05、登山口。ここから、林道を歩く。

真っ暗な未舗装の道を延々と歩く。

23:00、東大雪荘に着いた。「着いたあ！」。

宿の明かりが、こんなに嬉しかったことはない。

夕食を摂ることもできた。その後、お風呂に入り、やっと心地がよかった。

22日、10:00、新得駅への送迎車に乗る。

途中で、回復したとの連絡があり、皆ホッとする。

新得駅から南千歳まで行き、飛行機と新幹線に分かれて、横浜に戻った。

\* \* \*

太古からの火山活動や氷河期の名残をとどめる雄大な自然、咲き乱れる美しい高山植物、テント泊と美味しいご飯、44kmのロングトレイルを成し遂げて、素晴らしい体験ができました。リーダーの前田さんに様々な配慮をしていただき、一緒に行った方々との貴重な体験を共有できたことに、心から感謝しています。

記録：一之瀬

大雪山・トムラウシ山行での救助要請について(吉田) 山行報告にあるように山行中に会員が体調不良により救助ヘリと球急車で病院に搬送されるという事態になってしまいました。

詳細については同封しました前田さん作成の「大雪山-トムラウシ山縦走(事故について)」(9月4日の集会で配布しましたが変更箇所があります)を参照して下さい。

原因・対策をこれからの集会でさらに検討し再発防止を図りたいと考えていますので各自の意見をまとめておいて下さい。

\*救助にあたって大変お世話になりました「北海道警察本部 地域課 山岳救助係」と「とちかち広域消防局 救急救助課」には事故の報告の顛末書として前田さんより「大雪山・トムラウシ山行での救助要請について」の送付と遭難対策費からお礼の鳩サブレを送りました。警察からお礼の電話があったそうです。

又、雪稜会会長名でそれぞれにお礼状を送付しました。

2. 山行計画

出席者：吉田、前田、鈴木、大沢、加賀屋、佐藤文、一之

瀬、国島、武石、野間、瀧、星野、角田

## 1. 山行報告

特になし

## 2. 山行計画

### ① 劔岳北方稜線

- ・復旧工事が9月中旬。10月初旬復旧。  
日程は延期。

### ② 北八ヶ岳 (武石)

- ・登山計画の確認
- ・参加費の集金 15,500円  
次回9月20日、集金。

### ③ 玄倉～ユースン溪谷～塔の岳～大倉

- ・10月29日(日)実施

## 3. その他

大雪山～トムラウシ山縦走(事故について)(前田)

### 1. 計画について

パーティの構成

行動時間の検討

食料や装備など

### 2. 行動の概要

大雪山～トムラウシの縦走、本人の体調の様子

他の人の対応、救助要請、救助の様子、選択肢

### 3. 原因分析と今後の課題

症状と症状から思い当たること

原因についてとその対策

計画の問題：予備日と宿の予約の矛盾

コースタイム：もう少しゆとりが必要か

行動食：共同で用意することと内容の検討

計画内容の周知：理解度を把握する必要、

主体的に取り組む必要

経口補水液の共同装備

登山中の問題

食事の摂り方と行動

ビバークの必要、決断

**集会記録** (吉田) 9月20日(水) 18:00～19:10

出席者：吉田、前田、鈴木、大沢、佐藤文、武石、野間、

前島、瀧、星野、

## 2. 山行報告

特になし

### ① 劔岳北方稜線

- ・10月9日 夜行く

前田、星野他

### ② 北八ヶ岳 (武石)

9月24日夜行バス～26日

2日目北横岳には登らず坪庭からロープウェイで下山

### ③ 玄倉～ユースン溪谷～塔の岳～大倉 (吉田)

- ・10月29日(日)実施

参加者：吉田、前田、鈴木、武石、野間、瀧

### ④ 宝剣岳・木曾駒ヶ岳 10月4日(水)～5日(木)

(前田)

車で戸塚6時出発

千畳敷～木曾駒頂上山荘(泊)～宝剣岳～千畳敷

参加者：前田、井舛他

\*参加者募集

### ⑤ 丹沢三峰 (前田)

9月25日夜から26日

## 3. その他

大雪山～トムラウシ山縦走(事故について)(前田)

原因と責任があいまいで、今後の教訓にするには不十分  
であるので事故報告を書き直した。

雪稜通信に同封して配布するので、原因、防止策など各  
自の意見をまとめておく。

会員情報：脳梗塞で入院中の吉田正子さんを9月10日  
に佐藤文、大沢、三浦さんの3名でお見舞いに行きまし  
た。

元気で会話も出来ますが現在は車椅子生活です。

**集会日 場所 県民サポートセンタ**

10月6日(金) 303号室 18:00～20:00

10月23日(月) 603号室 18:00～20:00

11月6日(月) 603号室 18:00～20:00

11月20日(月) 1503号室 18:00～20:00

12月18日(月) 603号室 18:00～20:00